

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

平成14年度 第29回 総会 報告

日時：平成15年3月27日（木）

午後1時～4時

会場：ペアーレ神戸

総会プログラム

開会

- 1 会長挨拶
- 2 議長・副議長・書記選出
- 3 議案審議
  - 1) 平成14年度活動報告
  - 2) 平成14年度会計・監査報告
  - 3) 平成15年度活動方針
  - 4) 平成15年度事業計画
  - 5) 平成15年度予算
  - 6) 役員改選
- ～ 小憩 ～
- 7) 平成14年度会長・事務局長承認

閉会

議長：永井 保子（大阪府済生会泉尾病院）

副議長：重富 久代（京都市立病院）

書記：松尾 知香（石切生喜病院）

総会員数：122機関

出席：26機関

委任状：59機関

合計：85機関（会員の2/3以上の数をみ  
たし総会成立）

議案Ⅰ．平成14年度活動報告

はじめに

平成14年度の近畿病院図書室協議会活動は、前年度からの事業継承とその充実が主であった

が、次世代への交代を本格的に考えさせられる年でもあったといえる。

継続事業のうち、教育研修活動では実務を中心とする3回の勉強会と、定例の研修会を2回開催した。このうち、第99回研修会は「サマーセミナー2002」と題して、「学術文献とその課題」「EBMとライブラリアン」のテーマのもと、2日間のセミナー形式であった。講師には、山崎茂明氏（愛知淑徳大学文学部図書館情報学科教授）や中山健夫氏（京都大学大学院医学研究科・医療システム情報学助教授）などを招き、実務だけでなくアカデミックな側面でも学んだ。この企画は好評を博し、次年度以降もこの形式を踏襲することにした。2003年早々の第100回研修会は100回を記念して、病図協草創期から今日まで活躍中の会員図書館員5名を招き、後輩から先輩への質疑応答の形で座談会を開いた。

また、出版広報活動では会誌『病院図書館』を順調に季刊発行したが、一部編集部員の院内での異動があり、次年度以降の新編集体制を固めねばならなかった。協議会ホームページは昨年度の暮の大幅な改訂を施し、事業活動や会員紹介を中心に更新を重ねた。協議会の事業活動紹介の小冊子発行については残念ながら完成には至らなかった。

医学文献情報活動の一環である「医学雑誌総合目録」について、現在使用中の「1997年版」は実情を反映しないデータが多くなった。そのため、今年度と来年度にかけその改訂版を作成することにした。作業は従来どおり外注委託も併用し、配布・利用に当たっては、Web版とCD-ROM版を予定している。会員からのデータ提出を2002年の秋に予定していたが、2003年1月にデータ収集作業に入った。なお、書誌データについては東海地区医学図書館協議会と相互

に更新データを提供し合うことを予定している。

その他、年次統計等の調査活動では従来の各項目平均値の集計報告だけでなく、個々の会員データを施設名を伏せて公表し、より参考性を高めることにした。また、協議会が所蔵する資料や会誌の在庫の保管については、星ヶ丘厚生年金病院へ委託していたが、これを整理し、(株)ナカバヤシへレンタル倉庫保管することにした。

一方、対外交流に目を向けると、日本医学図書館協会とは総会出席、会員の文献相互貸借、研究会での発表など交流を深めた。また、その地区会である近畿地区医学図書館協議会とは地区例会へのオブザーバー出席などで、緊密に交流している。その他、病院図書室研究会や各地区の病院図書室ネットワークとも、それぞれ会誌交換や寄稿、研修会への参加など従来どおりの交流があった。

さらに、昨年度から始まった京都大学大学院医学研究科とのワーキンググループ活動も、今年度も継続した。また、著作権への取り組みとして、2002年10月11-12日の日本病院会全国図書研究会の開催を機に、同会学術部長と事務局長が面談し、病院図書館における著作権問題の取り組みについて協力を要望した。

### I-1-1 研修部

#### [第15回勉強会]

日時：2002年6月21日(金) 13:30~18:00

場所：大阪市立大学医学部医学情報センター  
情報訓練室

テーマ：医中誌 Web

講師：松田真美(医学中央雑誌刊行会)

医学中央雑誌刊行会との共催

参加者数：24名(含研修部)

#### [第16回勉強会]

日時：2002年7月27日(土) 13:00~16:00

場所：京都南病院

会費：500円

テーマ：病院図書館業務の基礎—データの収集から提供まで—

講師：研修部

参加者数：14名(講師を含む)

#### [第17回勉強会]

日時：2002年8月14日(水) 13:00~16:00

場所：住友看護専門学校

会費：500円

テーマ：やり直しの Excel—総合目録作成に向けて—

講師：亀井真由美(阪和記念会館)

参加者数：14名(講師を含む)

#### [第99回勉強会] サマーセミナー2002

日時：2002年9月6日(金)・7日(土)

場所：京都キャンパスプラザ

会費：会員2,000円 非会員3,000円

プログラム：

##### 第1日

1. 近畿病院図書室協議会の著作権問題に対する取り組みと経過について  
講師：小田中徹也(国立京都病院)
2. 出版倫理から文献情報流通を考える  
講師：山崎茂明(愛知淑徳大学文学部図書館情報学科)
3. 病院図書室での文献取り寄せについて—統計からみた推移—報告—

研修部

4. 大学図書館と相互貸借業務  
講師：咲尾佳秀(大阪市立大学学術情報センター医学分館)

##### 5. ワークショップ

テーマ

- 1) 患者さんへの医学情報提供サービス
- 2) 著作権と病院図書館
- 3) Web時代の利用者教育

##### 第2日

1. EBMにおけるエビデンスとは  
講師：中山健夫(京都大学大学院医学研

究科医療システム情報学)

2. エビデンスを探す—情報源とその使い方

講師：河合富士美（聖路加国際病院医学図書館）

3. PubMedによるエビデンス検索

講師：小田中徹也（国立京都病院）

参加者数：延べ41名

**[第100回勉強会]**

日時：2003年1月24日（金）9：00～16：45

場所：大阪労災病院

会費：会員1,000円 非会員1,500円

プログラム

1. 医療制度の特徴とその実態

「これからの病院図書館＝医学図書館から医療図書館へ」

講師：前田元也（姫島診療所）

2. 近畿病院図書室協議会総合目録データの提出方法について

講師：山室真知子（京都南病院）

3. 『医学の基礎知識』～膝のスポーツ障害

講師：堀部秀二（大阪労災病院）

4. もっとよくわかる医学用語

講師：濱口恵子（高槻赤十字病院）

5. 第100回研修会を迎えて

近畿病院図書室協議会の歩みと未来への期待

重富久代（京都市立病院）

首藤佳子（星ヶ丘厚生年金病院）

松本純子（住友病院）

山崎捷子（淀川キリスト教病院）

山室真知子（京都南病院）

司会：小田中徹也（国立京都病院）

参加者数：33名

**[第101回研修会] 事例・研究報告会**

日時：2003年3月27日（木）10：00～12：00

場所：ペアーレ神戸

プログラム

1. 病院図書館へのiLiswing21導入事例

中村雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）

2. 病院図書室と私—この一年をふりかえって

松尾知香（石切生喜病院）

3. 近畿病院図書室協議会統計調査

増田徹（藍野学院短期大学）

4. 研修会参加者動向分析

林伴子（社会保険神戸中央病院）、他

参加者数：27名

今年度は2回の研修会、3回の勉強会を行った。また、今年度2回目の研修会で、1975年1月24日に始まった第1回の研修会から28年を経て、無事100回を迎えることができた。

研修会のうち9月に行った第99回研修会は、サマーセミナーとして二日間にわたって開催した。

主テーマは、第一日目は「学術文献とその課題」とし、著作権問題や文献の流通、入手を取り上げてみた。協議会での取り組みも報告されたが、今後も継続して考えていかなければならない問題としての認識を新たにした。

また、参加者が自ら考え発表する場として、KJ法を応用したワークショップを行い、グループごとにディスカッションを重ね、プレゼンテーションを行った。参加者の自由な意見を尊重するグループディスカッションを、初めて体験した参加者も多かったが、それぞれ活発な意見の交換があり、全体討論でも質疑応答が盛んに行われた。

第二日目では「EBM」の基礎から実際の活用まで、半日という短い時間ではあったが、基本的なことを知る事ができた。

第100回研修会は記念大会という意味を込めて、先輩諸氏を迎えてこれまでの歩みを振り返り、未来への期待を語っていただいた。また、これからの業務に役立つ医学医療の基礎知識の習得に重点をおいた内容となった。特に医療制度問題は、非常にわかりにくいものであるが、

我々自身に関わる問題として考えさせられた。

第15回勉強会は、医学中央雑誌ユーザー会とはほぼ同じ内容ではあるが、協議会会員へのオープン参加を可能にした形で医学中央雑誌刊行会との共催として行った。医学中央雑誌は病院図書館にとっては有用なツールとして普及している。実際にユーザーであるかどうかを問われずに参加でき、実務の面から有意義な研修であった。

第16回勉強会は、例年行っている図書館業務の基礎をテーマに、病院図書館の先駆けとして活発な活動を続けている京都南病院の見学も兼ねて行った。

第17回勉強会は、昨年度行ったエクセルの勉強会を踏まえて、今年度から始まった、総合目録作成に役立たせることを目的とした。関数など、覚えたつもりでも使う機会がないと忘れてしまいやすい。今回はもう一度復習するよい機会となった。

今年度は近畿地区医学図書館協議会のシンポジウムは開催されなかった。

今年度の研修部の活動としては、サマーセミナーに重点を置いたものになった。

昨年度の総会で提案したように、年度計画としては、研修会の開催を少なくし、その分外部の講師を招聘するなど、従来の研修会とは一味違った内容となるように企画した。各回とも多数の参加があり、参加者からは概ね好評を得た。なお、最近の参加者動向については今回開催の事例・研究報告会で研修部として報告した。

今年度では医学中央雑誌刊行会との共催での勉強会を行ったが、実務研修として会員へ還元できるよい機会となった。

事例・研究報告会での演題の応募が少ないことについては総会場で毎回のようには報告している。今回もまた演題集めに苦慮した。最終的には幹事や研修部関係での演題がほとんどという結果になってしまった。日常業務の問題解決にはインターネットが有効な時代となってきた。しかし、個々の創意工夫や研究結果を報告

会場で発表することによって相互に共有できるのは協議会のようなネットワークのメリットのひとつである。専門職としての業績のためにも発表技術は有効な手段となり得ると考えるが、そのスキルアップのためにも報告会を活用してほしい。また、研修部としても、研究・発表の技法を磨く手段のひとつとして有志による研究グループの発足の支援など、新たな展開を図る時期になってきたのではないだろうか。

今年度の研修部は昨年と同じ部員で活動したが、100回を越えた研修会が今まで以上の成果を挙げるためにも会員の積極的な研修部活動への参加を期待したい。

2002年度の研修部員は以下のとおりである。  
 部長：林 伴子(社会保険神戸中央病院：幹事)  
 部員：神田 智香子(宇治徳洲会病院：幹事)  
       北川 佳世子(大阪労災病院：幹事)  
       亀井 真由美(阪和記念会館)  
       田中 文子(済生会兵庫県病院)  
       中村 雅子(大阪府立母子保健総合医療センター)

## I-1-2 会誌編集部

### 1. 活動報告

今年度は会誌22巻1号～4号を発行した。配布部数は、213部(会員122、講読会員68、交換7、寄贈16)、印刷部数は各号300部である。

掲載内容企画について、各号毎に編集会議を行い、編集方針に基づき企画発行することができた。

#### (1) 会誌内容概略および発行日

22巻(2002年)

1号(発行 H14.3.25.42頁)

特集：病院図書館員のヘルスケア

東洋医学、神経内科学、眼科学の分野の専門医師に執筆依頼し、図書館員の多くが日ごろ悩まされているであろうと思われる疾患について、知識を得、またそれを業務に生かせればと企画した。図書館員が一人も特集に執

筆していないが、専門分野からの企画として編集方針を持ったためである。

当協議会研修会において講演された、近未来の図書館の予測と電子ジャーナルの今を展望する話題を取り上げ、出版関係者の執筆により掲載した。

「目からうろこ」のコーナーが加わる。コンピュータに関する話題で、身近な疑問をわかりやすく1ページに掲載するものである。前編集部長の前田元也氏に依頼した。

「ふらっと歴史小話」がシリーズに加わる。阪中央総合病院外科医矢野隆嗣先生による4回シリーズ。歴史上の逸話を、史実を基に著者なりに解釈したものを紹介する形で、気軽な読み物として掲載した。

その他

2号(発行H14.7.11.72頁)

特集：注目の電子情報サービス

電子ジャーナル、電子情報のデータベース管理など、最新サービスの情報について、それらを取り扱う企業商品を紹介する企画とした。4社に依頼。

近畿病院図書室協議会第28回総会記念講演「女性の人権を守るための5つのキーワード」  
里の家助産院 赤松彰子先生

「病院図書館」読者アンケート結果報告研修会にて報告したものを、まとめて掲載した。編集部による統計調査。

「ちょっとこぼれ話」がシリーズに加わる。高槻赤十字病院 医事課 濱口恵子氏による。ギリシャ神話の世界に浸りながら、医学用語への理解を深めることができる、一石二鳥のブレイク・タイムである。

第28回総会報告

会員名簿

会則

他

3号(発行H14.9.25.43頁)

特集：司書資格を考える

図書館専門職として、司書資格の意義と役

割を再確認することを目的として編集企画した。

他

4号(発行H15.1.27.61頁)

特集：1. 学術文献とその課題

2. EBMとライブラリアン

3. ワークショップ

当協議会第99回研修会サマーセミナーの内容を特集として掲載した。講演ならびにワークショップの活発な雰囲気を読者の興味をひくことを期待した。

(2) シリーズ掲載について：

「臨床に役立つ雑誌」

22. 消化器外科の雑誌 (Vol.22 No.1)

23. 血液内科—医学の進歩を日常臨床へ反映するために (Vol.22 No.4)

このシリーズは、今回にて終了した。

「いますぐ役立つホームページ」

⑬ 萬有製薬ホームページ (Vol.22 No.1)

⑭ 標準看護計画 (Vol.22 No.3)

「相互貸借のための便利ノート」

⑪ 図書館員の倫理 (Vol.22 No.2)

⑫ FAXでの複写申込用式 (Vol.22 No.4)

「What's EBM?」

⑤ 昔なつかし「オジャマ虫」～2人の間をかきみだすのは? (Vol.22 No.1)

⑥ 農業をしていると胃がんになる…? (Vol.22 No.2)

⑦ 「タバコ」と「長生き」 (Vol.22 No.3)

⑧ 「クスリの効果」を調べるには (Vol.22 No.4)

「ふらっと歴史小話」

① 本を買う人、人を買う人 (Vol.22 No.1)

② 城址に咲く花、散る花 (Vol.22 No.2)

③ 神の棲む島 (Vol.22 No.3)

④ 彼岸まいり—熱き流れ「遺伝子の河」— (Vol.22 No.4)

このシリーズは、今回にて終了した。

「ちょっとこぼれ話」

I (Vol.22 No.2)

II (Vol.22 No.3)

III (Vol.22 No.4)

(3) 掲載広告各社：

サンメディア	年間契約
ナカバヤシ	年間契約
ベルブック	年間契約
医学中央雑誌刊行会	年間契約
厚生社	年間契約
ユサコ	年間契約
科学技術振興事業団	年間契約
丸善	年間契約
インフォトレイダー株式会社	年間契約
南江堂	単発契約
メテオインターゲート	単発契約

(4) 編集会議：

第1回	2002年4月20日	名古屋
第2回	2002年7月16日	名古屋
第3回	2002年10月23日	名古屋
第4回	2003年1月25日	名古屋

2. 次年度編集方針

例年同様、協議会機関誌としての編集方針を継承し、さらに病院図書館担当者の専門性を高めるために、誌面上から貢献できる記事作りを考える。

今後、インターネットによる公開情報の資料を提供する場合も考えられるが、著作権をよく理解した上で掲載方法を考え、対処すべきであり、注意していきたい。また、編集部員の出版物編集に対する知識の習得機会を持つことも必要と考えている。

「臨床に役立つ雑誌」は、23回をもって昨年度にて終了したが、今後重要と思われるテーマについて新たな企画を持つことが必要と考える。「いますぐ役立つホームページ」、「相互貸借のための便利ノート」については、広く著者の公募も募りたいと考えている。「What's EBM?」

のシリーズ掲載は、中山健夫先生のご厚意により続行していく。「ちょっとこぼれ話」を継続して連載する。

例年どおり、2号は小特集・総会記事等、3号、4号は特集記事や各論文で編集方針をすすめる、ニュース記事や会員間の情報交換のページを充実するとともに、関連記事（図書館、医療関係）の紹介の充実を計る。従来の読みやすく、親しみがあり、アクティブな誌面づくりを心がける。

会則は2号に、投稿規定は毎号掲載する。

来年度は編集部長が交替することでもあり、新編集部長をはじめ新部員も数名迎え新たな編集体制の下、会員全員参加の機関誌としていきたい。

3. 部 員 (2003年3月現在)

部 長：森川 治美 (松阪中央総合病院)

部 員：大橋真紀子 (社会保険中京病院)

春日井泉江 (豊橋市民病院)

瀬戸 嘉枝 (神奈川衛生学園専門学校)

中嶋 和子 (西宮市立中央病院)

濱口 恵子 (高槻赤十字病院)

福田 香織 (医真会八尾総合病院)

藤井 梨枝 (福井県済生会病院)

増田 徹 (藍野学院短期大学)

協力員：前田 元也

I-1-3 統計調査部

1. 図書室統計調査報告書の発行

a. 調査対象期間：平成13年度 (2001年4～2002年3月)

b. 調査項目：図書室管理機能、サービス機能、年度統計

c. 作業経過：

2002.8.8 「病院図書館」に同封して送付するため業者に発送 (125部)

2002.8.18 各施設へ発送 (121施設)

2002.10.6 訂正箇所をFAXで通知。該当箇所はFAXでの回答を依頼

2002.10.7 回答締切日

2003.3月中旬 統計調査報告書発送予定  
(121施設)

d. 回答施設：73施設 (回答率60.3%)

今年度、統計調査報告書を大幅に改訂した。変更点については統計調査部から幹事会に諮り、同意を得た。主な変更点は以下のとおり。

- 調査対象を病院／専門学校／短期大学に分けた。
- 年次統計については平均値や最大・最小値あるいは分布ごとの数字ではなく、できるかぎり具体的に個別データを示した。ただし施設名については公表せず、設置者のみを示した。またこれまで公表してきた調査参加施設も非公表とした。

なお、今回の個別データ公表の方法は試験的なものであり、今後、会員の意向も反映していきたい。

## 2. 文献の相互利用 (平成13年度協議会全体での件数)

### 一申込一 (73施設)

協議会会員	13,198件 ( 35.6%)
会員以外の病院	1,899件 ( 5.1%)
大学図書館	13,222件 ( 35.7%)
文献手配業者	7,819件 ( 21.1%)
その他	935件 ( 2.5%)
合計	37,073件 (100 %)

### 一受付一 (73施設)

協議会会員	10,662件 ( 72.6%)
上記以外の病院	3,294件 ( 22.4%)
その他	739件 ( 5.0%)
合計	14,695件 (100 %)

## I-1-4 目録編集部

### 『医学雑誌総合目録2003年版』の編集

『医学雑誌総合目録1997年版』の完成以後、年々細分化される医学分野で創刊された雑誌の増加分の追加と、年々の所蔵データの修正による追補版として、これまで『現行雑誌所在目録』

を1998年版、1999年版、2000年版、2001年版と重ねて発行してきた。

一方、会員が現在使用中の「医学雑誌総合目録」は1997年版であるため、会員所蔵の正確なデータを反映しなくなっている。そこで平成13年度にこれを改訂する準備を進め、今年度は会員データの収集など実作業に着手した。今年度の作業としては、まず1997年版に提出されたデータを各会員へフロッピー・ディスクで渡し、2003年1月現在の所蔵データへの修正を2月中に完成させた。平成15年度の来年度は、これの編集発行を目指しているのも、会員の一層のご協力をお願いしたい。発行形態はIT時代に即したCD-ROM版とWeb版を検討中である。

なお、2002年および2003年の所蔵データは『医学雑誌総合目録2003年版』に含まれるので、『現行雑誌所在目録』は発行しない。

## I-1-5 会員業績 (当協議会関係での発表は除く)

### 『口演発表』

- (1) 患者・一般市民における医学情報の需要と関心—最近5年間の報告—全国患者図書サービス連絡会の会報事例をもとに—  
山室真知子  
第19回医学情報サービス研究大会 (静岡)  
2002.7.6～7
- (2) シンポジウム「患者さんへの図書サービスとボランティア」  
座長：山室真知子  
全国患者図書サービス連絡会講演会  
(東京) 2003.1.25
- (3) パネルディスカッション「すべての図書館に専門職員の資格制度を」  
パネリスト：首藤佳子  
図書館情報大学平成13年度生涯学習セミナー (公開セミナー) (東京)  
2002.3.9
- (4) 病院図書室をめぐるいくつかの課題  
首藤佳子

- 第9回日赤図書室協議会研修会（公開セミナー）（東京）  
2002.7.18～19
- (5) テーマ「看護図書館員が学ぶ EBM や EBN」  
医療の現場とEBM－星ヶ丘厚生年金病院の場合  
首藤佳子  
看護図書館協議会第29回研究会（京都）  
2002.10.26～27
- (6) 病院図書館員認定資格のための必要条件  
首藤佳子  
第39回日本科学技術研究集会  
(INFORUM 2002)（東京）  
2002.11.14～15
- (7) 診療ガイドライン作成作業における国内  
医学文献データベースの検索とその結果  
の考察  
松本純子、小田中徹也、首藤佳子、大橋  
真紀子、須井麻由美、山室真知子、中山  
健夫、東尚弘、福原俊一  
第19回医学情報サービス大会（静岡市）  
2002.7.6～7
- (8) 医学系大学院での EBM ワークショップ、  
図書館員の参加とその効果  
小田中徹也、中山健夫、福原俊一  
日本医学図書館協会第9回医学図書館員  
研究会・継続教育コース（大阪市）  
2002.11.27～29
- (9) 情報・資料の網羅的収集、検索、集積、  
評価－「集積」文献のデータベース化に  
ついて  
小田中徹也  
平成14年度厚生労働科学研究・医療技術  
評価総合研究事業「EBM 支える人材の  
系統的な養成に関する調査研究」（主任研  
究者：緒方裕光）  
第1回 EBM を支える情報の専門家のため  
のワークショップ（和光市）2002.12.16-18
- (10) EBM における情報専門職の役割－リ  
サーチライブラリアンの立場から－  
小田中徹也  
平成14年度厚生労働科学研究・医療技術評  
価総合研究事業「EBM 支える人材の系統  
的な養成に関する調査研究」（主任研究  
者：緒方裕光）  
第1回 EBM を支える情報の専門家のため  
のワークショップ（和光市）2002.12.16-18
- (11) 国内 EBM 指向文献の検索－「JOIS」と  
「医中誌 Web」を使用して－  
大橋真紀子、首藤佳子  
第40回日本社会保険医学会総会（横浜  
市）  
2002.11.14～15
- [誌上発表]
- (1) 首藤佳子、他  
すべての図書館に専門職員の資格制度を  
－大学、公共、専門、病院図書館と司書  
養成の立場から－  
生涯学習教育研究センター調査報告書 図  
書館情報大学生涯学習教育研究センター  
2002.8
- (2) 首藤佳子  
医療の中の図書館員－より専門的なサー  
ビスをするために－  
日赤図書館雑誌. 2002 ; 9 (1) : 22-3.
- (3) 首藤佳子  
図書紹介（「学術情報と知的所有権－オー  
サーシップの市場化と電子化」、名和小太  
郎著、東京大学出版会 2002）  
情報管理 2002 ; 45 (8) : 588.
- (4) 河合富士美、木下久美子、熊谷智恵子、  
小田中徹也、首藤佳子、濱口恵子、林  
伴子、福岡敏雄  
第1回 EBL 研究会－病院図書館員による  
CASP ワークショップの試み  
EBM ジャーナル. 2002 ; 3 (3) : 114-7.
- (5) 小田中徹也  
院内 EBM ワークショップへの図書館員



の参加

日赤図書館雑誌. 2002 ; 9 (1) : 19-21.

- (6) 中山健夫、福原俊一、小田中徹也  
リウマチ診療のガイドライン作成に向けて  
リウマチ科. 2003 ; 29 (3) : 292-300.
- (7) 小田中徹也  
館種別図書館概況「病院図書室」：近畿病院  
図書室協議会  
図書館年鑑2002年版 日本図書館協会  
(投稿中)
- (8) 林伴子  
病院図書館と研修活動  
ほすびたるらいぶらりあん. 2002 ; 27 (3) :  
245-51.

#### I-2-1 幹事会

昨年同様、4回の幹事会を開き、会の運営にあたった。

第1回 (2002/4/18) : 国立京都病院

第2回 (2002/7/25) : 住友病院

第3回 (2002/9/17) : 星ヶ丘厚生年金病院

第4回 (2003/1/16) : 国立京都病院

#### I-2-2 役員会

平成15年2月26日、社会保険神戸中央病院において開催された。中村会長の挨拶、司会の下、まず平成14年度の活動報告と会計報告、平成15年度の活動方針案、事業計画案、予算案が審議された。活動報告では一部表現上の訂正が加えられたが、概ね了承された。また、活動方針や事業計画案についても了承されたが、予算案では具体的な項目についても検討され、予算案に反映することにした。

次に、平成15年度の会長について、中村充男現会長に替わり京都南病院の清水聡院長が選出された。また、事務局長は国立京都病院の小田中徹也現事務局長が引き続き選出され、それぞれ総会に諮ることになった。

#### I-2-3 会員の状況

会員数：122機関 (平成15年1月現在)

(近畿外 39機関、病院外 8機関)

異動：

入会：鈴鹿回生病院 (三重)、西陣病院 (京都)

退会：新日鉄広畑病院 (兵庫)

#### I-2-4 対外交流

日本医学図書館協会とは、第73回総会 (2002.5.23-24 松山) へ事務局長がオブザーバーとして出席した。また、その地区会である近畿地区医学図書館協議会の例会でも、第81回 (2002.6.14 大阪医大)、第82回 (2002.11.20 大阪市立大医学部) へ、それぞれ事務局長が同じくオブザーバーとして出席した。さらに、第83回 (2003.3.4 神戸大医学部) へは協議会から幹事の林伴子が出席した。一方、東海地区医学図書館協議会とは「総合目録1997年版」の書誌データを提供したことから、総合目録の改訂にあたっては、更新データの提供を受ける予定になっている。

日本病院会の平成14年度全国図書研究会 (2002.10.11-12 東京) の開催にあたっては、例年どおり協議会の後援名義を提供した。この開催時、事務局長が日本病院会学術部長と会見し、著作権法第31条における病院図書館の位置付けについて、協議会のこれまでの取り組みを説明し、今後の理解と協力を求めた。日本病院会としても関係部門で検討し、前向きに考えていきたいとの見解であった。

昨年度から始まった京都大学大学院医学研究科 (社会健康医学系) とのワーキンググループ活動は今年度も継続し、「慢性関節リウマチ診療ガイドライン」作成作業で協力した。この交流はさらに、研修会での講師招聘や会誌での啓蒙記事の執筆、あるいは大学院授業における図書館員の協力など、活動の幅を広げた。

その他、病院図書室研究会や各種の医療系図書館ネットワークとも、それぞれ会誌交換や寄稿、研修会への参加などで、例年どおり交流した。

議案Ⅱ. 平成14年度会計・監査報告

平成14年度 会計監査

(収入の部)

単位 円

費目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金	433,662	433,662	
会費	3,830,000	3,760,000	H14×119=3,570,000 H13×4=120,000 入会金×2=20,000 賛助会費×1=50,000
事業収入	569,000	633,050	
会誌購読会費	462,000	450,000	H14×69=414,000 H13×6=36,000
研修会費	107,000	141,500	第98・99・100回研修会参加費 第16・17回勉強会参加費
その他	—	41,550	「わかる医学用語」・「会誌」売上げ
広告掲載料	452,000	476,000	サンメディア、他
その他	—	9	銀行利息
合計	5,285,162	5,302,721	

(支出の部)

単位 円

費目	予算額	決算額	差引増△減	摘要
総会費	100,000	90,325	9,675	選挙・議案書費用 特別講師謝礼・交通費
事務費	100,000	59,913	40,087	封筒印刷費 銀行手数料、他
通信費	100,000	68,900	31,100	事務局、各部会連絡、会 員宛通信費
交通費	550,000	391,300	158,700	幹事会・各部会、他
事業費	3,740,000	3,594,478	145,522	
会誌発行費	2,500,000	2,534,490	-34,520	会誌22(1)(2)(3)(4) 印刷費、発送費、図書券、 他
研修会費	220,000	396,207	-176,207	第98～100回研修会 第16・17回勉強会
現行雑誌所 在目錄	520,000	519,855	145	2001年版
その他事業	500,000	143,896	356,104	ホームページ改訂作業費 他
対外活動費	300,000	43,355	256,645	JMLA総会参加費・交通費、
資料費	50,000	20,916	29,084	「情報の科学と技術」購読 料
会議費	150,000	99,580	50,420	会場費、他
予備費	150,000	0	150,000	
雑費	45,162	0	45,162	
合計	5,285,162	4,368,767	916,395	

収入	金額		支出	金額	
	金額	金額		金額	金額
前年度繰越金	433,662		総会費		90,325
会費	3,760,000		事務費		59,913
事業収入	633,050		通信費		68,900
会誌購読会費	450,000		交通費		391,300
研修会費	141,500		事業費		3,594,478
その他	41,550		会誌発行費		2,534,520
広告掲載料	476,000		研修会費		396,207
その他	9		現行雑誌所在目錄		519,855
			その他の事業		143,896
			対外活動費		43,355
			資料費		20,916
			会議費		99,580
			雑費		0
			翌年度繰越金		933,954
合計	5,302,721		合計		5,302,721

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成15年3月20日

高田 幸子  
田中 友恵

議案Ⅲ. 平成15年度活動方針

病院図書館を取り巻く環境は、医療機能評価の普及や目前の医師臨床研修の必修化、あるいは臨床医学における EBM の浸透、医学情報の IT 化、患者への医学情報提供の拡大、さらに学術情報における著作権問題など、大きな転換期を迎えている。これは、従来ともすれば陥りがちだった対応のスペースや予算だけの「病院図書館室」では対応しきれず、医学情報の専門家たる図書館員が十分にそこで働いてこそ成立する「病院図書館」だといえよう。

当協議会ではこの数年、図書館員の専門性を高める認定制度化への試み、著作権上の病院図書館の明確化、あるいは EBM への介入など、病院図書館と図書館員向上のために幾つかの課題に取り組んできた。それぞれ大きな課題であ

るため、一朝に為し得ることは難しいが、一定の成果はあったものと評価できよう。

しかしながら、各職場においてこれらが必ずしも追い風にはならず、長引く不況と医療制度改革もあって逆風になっているといっても過言ではない。とはいえ、これを打破するためには、医療の分野で医学情報を担う唯一の専門家としての意識と資質を持ち、良質な医療に寄与していくことが前提となろう。

その意味で、来年度も医学文献情報活動、教育研修活動、出版広報活動、年次統計調査、また『医学雑誌総合目録』の改訂版発行などの継続事業を着実に進めること。さらに、著作権やEBM 関連についても積極的な取り組みを事業化する。

なお、当協会の運営に当たっている役員の図書館員のうち、数名はこの1 両年中に余儀ない交替が予想される。そこで、来年度は新旧交代の移行準備年として捉え、今後の交替が円滑に進むよう会員の一層の協力を得たい。

#### 議案Ⅳ. 平成15年度事業計画

1. 医学文献情報活動
  - 「医学雑誌総合目録」2003年版の編集発行
2. 教育研修活動
  - 研修会(セミナー形式)・勉強会の開催
  - 関連団体の研究研修会への案内と参加奨励
3. 出版広報活動
  - 会誌『病院図書館』の季刊発行
  - ホームページの継続と内容更新
  - 協議会活動紹介の小冊子発行
4. 年次統計等の調査活動
  - 年次統計と相互貸借の調査
5. 対外活動
  - 京都大学大学院医学研究科との「EBM 情報システム・ワーキンググループ」活動
  - 関連団体機関との交流、連携
  - 著作権での関連機関団体への働きかけ

#### 議案Ⅴ. 平成15年度予算

(収入の部)		(支出の部)		単位 円
費 目	金額	費 目	金額	摘 要
前年度繰越金	933,954	総会費	100,000	選挙費用、図書費費用
会費	3,680,000	特別講師謝礼・交通費		
平成15年度		事務費	100,000	封筒印刷、銀行手数料
@30,000×120		他		
@50,000×1		通信費	100,000	事務局・各協会連絡、
平成14年度		他		会員通知、他
未納		交通費	550,000	役員会、幹事会、各部
@30,000×1		他		会、JMLA近畿地区例
事業収入	521,500	事業費	4,100,000	会、他
会誌購読会	414,000	会誌発行費	2,600,000	会誌23(1-4)・送料執
費		研修会費	400,000	筆料、他
平成15年度		定例研修会1回・事例		報告会・勉強会
@6,000×66		総合雑誌目	600,000	
平成14年度		録出版費		
未納		その他事業	500,000	13年度年次統計報告、
@6,000×3	107,500			インターネット関連
研修会費		対外活動費	200,000	費、他
定例研修会		資料費	50,000	講師謝礼料、他
@2,000×30×1		資料管理費	25,000	関係協所蔵資料
事例報告会		会誌費	150,000	会場費、他
@500×35×1		予備費	180,000	
勉強会		雑費	32,454	展覧費、接遇費
@500×15×4				
その他		合 計	5,587,454	
その他				
広告掲載料	452,000	合 計	5,587,454	
合 計	5,587,454			

#### 議案Ⅵ. 役員改選

##### 平成14年度選挙管理委員

- 首藤 佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)
- 中嶋 和子 (西宮市立中央病院)

##### 平成15年度役員

###### 幹事

- 安東 正子 (姫路赤十字病院)
- 林 伴子 (社会保険神戸中央病院)
- 神田 智香子 (宇治徳州会病院)
- 増田 徹 (藍野学院短期大学)
- 松本 純子 (住友病院)
- 野間 智子 (松阪中央総合病院)
- 山室 真知子 (京都南病院)
- 山崎 捷子 (淀川キリスト教病院)

###### 会計監査

- 永井 保子 (大阪府済生会泉尾病院)
- 田中 友恵 (神戸市立中央市民病院)

#### 議題Ⅶ. 平成15年度会長 事務局局長承認

##### 平成15年度

- 第十三代・会長 清水 聡  
(京都南病院院長)
- 事務局長 小田中 徹也  
(国立京都病院図書館室司書)